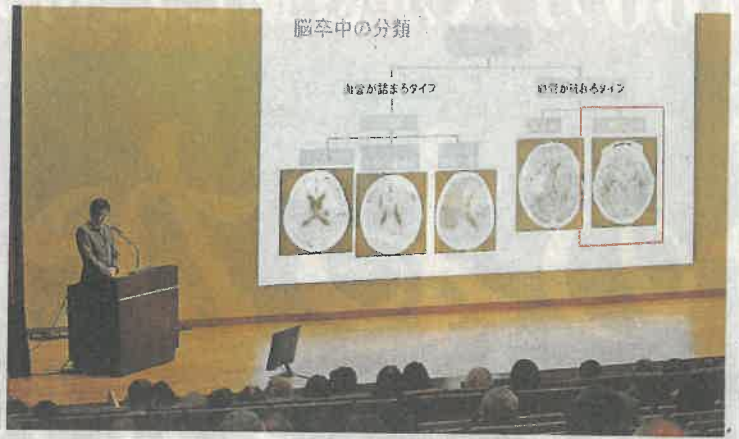


脳卒中と心臓病予防学ぶ

徳大病院 県民公開講座



心不全とくも膜下出血の予防や治療法について専門家が講演した県民公開講座＝徳島市の徳島大大塚講堂

徳島大学病院の県民公開講座「笑って健康! 脳卒中と心臓病の予防講座」(同病院脳卒中・心臓病等総合支援センター主催)が17日、徳島市蔵本町の徳島大大塚講堂であった。オンラインを含む約500人が専門医や管理栄養士の話に耳を傾けた。

徳島大学病院の脳神経外科の高麗雅章助教授は、脳卒中の一種のくも膜下出血が発症する原因として「脳動脈瘤の破裂が8割を占める」と説明。脳ドックを受けて脳動脈瘤を早期発見する必要性があるとした上で「年代は50代、性別では女性に気づきやすい」と注意を呼び

かけた。

心不全をテーマに話した卒後臨床研修センターの門田宗之副センター長は、高齢化に伴って患者が増えているとし、病気の進行に関して「がんのように急激に悪くなるわけではない。良くなったり悪くなったりを繰り返すうちにダメージがたまる」と指摘。「(今はいい状態だと思っても)体重の急激な増加や体のむくみ、息切れなどの症状が出たら我慢せず受診してほしい」と述べた。

栄養部の山田静恵栄養管理部門長は、健康的な生活を送るための食事の注意点を挙げた。

現役の医師で芸人のしゅんしゅんクリニックPさんが「健康に暮らすお笑い」と予防医学」と題して特別講演。健康に過ごすための笑いの重要性について、ユーモアを交えながら話した。

(木村恭明)